

# ユネスコ世界遺産が誕生するまで

1959年、エジプトのナイル川流域にアスワン・ハイ・ダムをつくる計画が持ち上がりました。翌年ユネスコは、このダム底に沈む危機にあつた貴重な古代遺跡アブ・シンベル神殿を救うための国際キャンペーンを始めました。また、1966年にイタリアのヴェニスが水害にあい貴重な文化遺産が被害をうけると、ユネスコは復興の支援にのりだします。このように1960年代以降、国際協力によって世界的に貴重な文化遺産を守ろうとする考えが広がり始めました。

その頃、アメリカを中心として、貴重な自然と歴史的環境を守るための「世界遺産基金」をつくろうとする動きが同時に起こっていました。

これらの動きがひとつになり、1972年のユネスコ総会で「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(通称「世界遺産条約」)が成立し、世界的な価値をもつ文化遺産と自然遺産の保護を国際協力によって行う、世界遺産というしくみが誕生しました。

1975年 条約発効

1992年 日本の条約締結について国会承認、発効

2024年現在 締結国数196か国



アブ・シンベル神殿

# せかいいいさん 世界遺産のこれから

世界遺産条約が成立して10年ほど過ぎた頃から、登録された遺産の種類や、  
遺産のある地域などに偏りがみられるようになりました。それは、①自然  
遺産にくらべて文化遺産がとても多い、②ヨーロッパの遺産が他の地域とく  
らべて多い、③歴史的都市や宗教関連の建物が多い、といった問題です。  
ユネスコはこの問題解決のために、1994年「均衡性、代表性及び信用性のあ  
る世界遺産一覧表のためのグローバル・ストラテジー※」というプロジェクトを始めました。(※グローバル・ストラテジー Global Strategy → 世界的な戦略)

バランスのとれた世界遺産一覧表にするために、新たに登録したほうがよ  
い文化遺産として、「文化的景観」、「産業遺産」、「20世紀の遺産」という分野  
があります。富岡製糸場はこのうちの「産業遺産」に当たります。

2025年7月現在、世界遺産は1,248件あります。その内訳は文化遺産972件、  
自然遺産235件、複合遺産41件で、種類のうえでの偏りはまだ解消されてい  
ません。また地域的にみても、ヨーロッパの遺産がほぼ半数をしめる一方で、  
条約加盟国であっても登録遺産をひとつもたない国が26か国あります。

このような偏りをなくすためのとりくみは、ひきつづき行われています。

「富岡製糸場と絹産業遺産群」は2014年6月25日、世界遺産一覧表に記載  
されました。



さんぎょういさん  
産業遺産  
きょうこく  
アイアンブリッジ峡谷